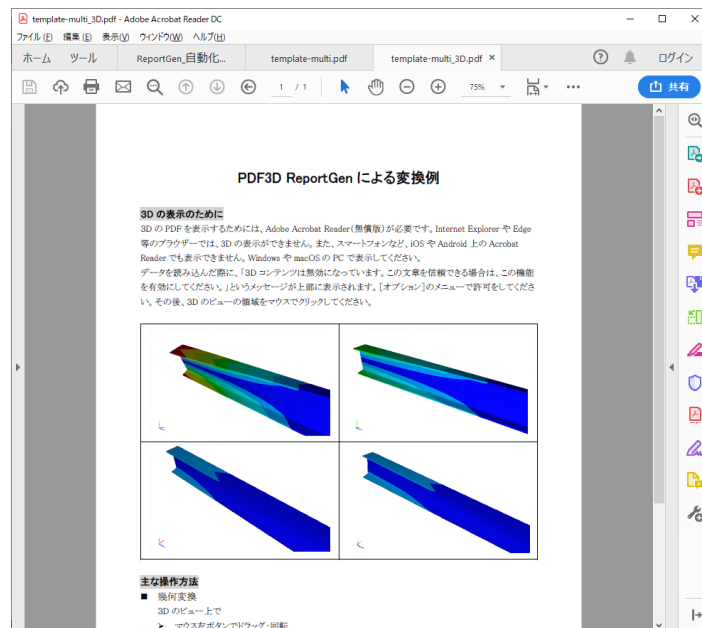


PDF3DAutoConverter v1.4

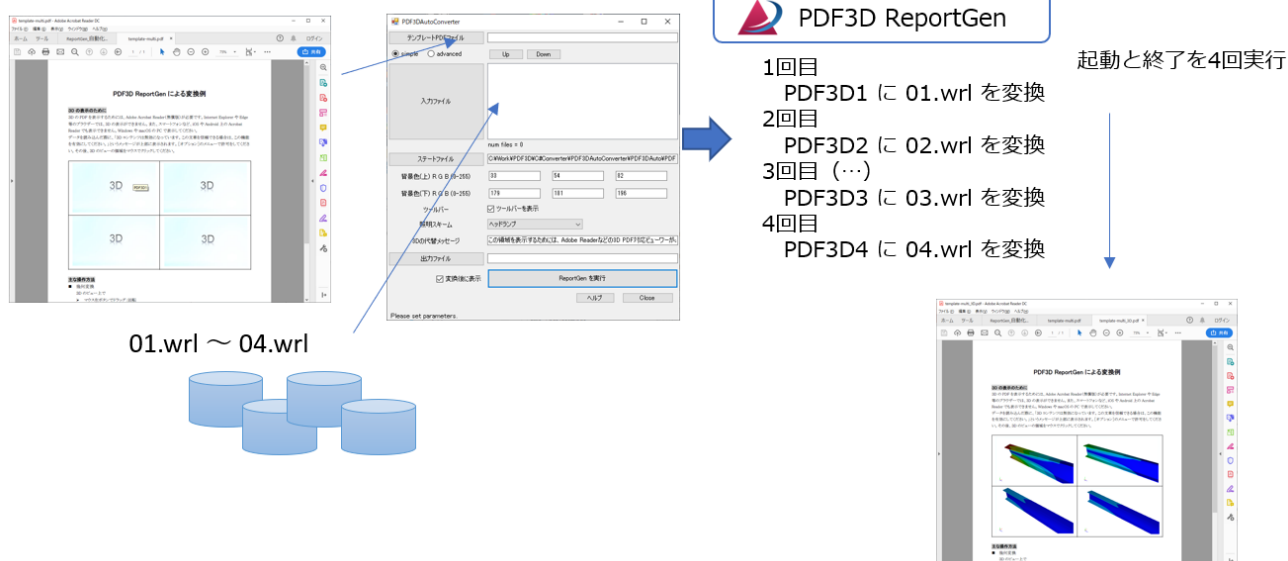
PDF3DAutoConverter は Word や PowerPoint で作成したテンプレート PDF に複数のビューを並べたいときに利用できる PDF3D ReportGen の補助ツールです。

例えば、下図に示すように 4 つの 3D ビューを作成するには、まず、Word で 4 つの仮画像に対して PDF3D1 ～ PDF3D4 のプレースホルダーを設定し、PDF ファイルに保存します。その後、ReportGen で、1 つずつデータを変換します（計 4 回実行）。（実際の手順はチュートリアル・ガイドを参照してください。）



このツールは、各プレースホルダーに設定する 3 次元ファイルのリストを作成し、そのリストの順番に、ReportGen を繰り返し自動実行するためのツールです。

下図のように、プレースホルダーを配置した PDF ファイル（テンプレート PDF ファイル）とそのプレースホルダーに配置する形状データを指定します。ツールの中で、どのプレースホルダーにどの形状データを割り当てるかの順番を設定し、実行ボタンをクリックすると、ReportGen を自動的に実行し、最終的な PDF ファイルを作成します。



※ Windows 64 bit 版のみに対応しています。
(.NET Framework 4.6.1 以降が必要です。)

bin フォルダーにある以下のファイルを実行します (ダブルクリックします)。

bin¥PDF3DAuto.exe

<補足>

この実行バイナリは、ReportGen 2.24 以降に対応しています。ご利用の ReportGen のバージョンがそれより前のバージョンをご利用の場合には、同じフォルダーにある PDF3DAuto.2.23.exe ファイルを実行してください。

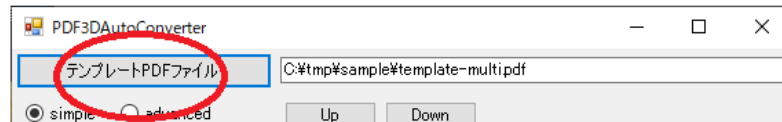
実行方法 (simple モード)

simple モードは、プレースホルダー 1 つに対して、形状データ 1 つを割り当てることができるモードです。

以下の手順で実際に操作しながら、使い方を確認してみてください。

① テンプレート PDF ファイルの指定

[テンプレート PDF ファイル] ボタンをクリックし、テンプレート PDF ファイルを指定します。



sample フォルダーにあるサンプル・ファイル、template-multi.pdf を選択してください。(template-multi.doc で作成されたファイルで PDF3D1 ~ PDF3D4 のプレースホルダーが設定されています。)

※ デフォルトでは、出力ファイルに、このテンプレート PDF ファイルと同じ場所に、同じ名前の接頭子に_3D.pdf を追加した名前 (この例では、template-multi_3D.pdf) が設定されます。以降の [出力ファイル] ボタンで変更できます。

② 3 次元データ・ファイルの指定

次に、[入力ファイル] ボタンをクリックします。ファイル・ブラウザが開きますので、Shift キーを押しながら、もしくは Ctrl キーを押しながら、3 次元のデータ・ファイル (複数) を選択してください。



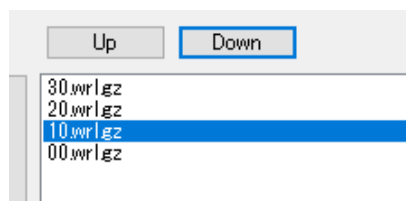
sample フォルダーの下に data フォルダーに、00.wrl.gz ~ 30.wrl.gz の 4 つのファイルがありますので、この 4 つのファイルを選択します。上図のように、そのファイル名がリストされ、ファイルの数がその下のラベルに表示されます。

③ ファイルの並べ替え

ファイル・リストの中で名前を選択し、その上部にある Up / Down ボタンで上下に移動することができます。

simple モードでは、プレースホルダーの順番 (PDF3D1 ~) に、ファイルのリストが上から並ぶように調整してください。

simple モードは、プレースホルダーのアノテーション番号が必ず 1 番から始まり、PDF3D1, PDF3D2, … のように、順番に設定されている必要があります。このファイルのリストの上から順に 1 番から割り当てられます。



sample データを使ったテストでは、どのように並んでいても構いません。リストを Up / Down で移動できることを確認してみてください。

何度かやり直しを行う可能性がある場合は、リストを操作するのではなく、ファイル名そのものを変更の方が簡単です。例えば、以下のようにファイルの先頭に番号を付けて、読み込んだ状態で、アノテーション番号の順番に並ぶファイル名にしてください。

PDF3D1 に配置するファイル : 001_ファイル名

PDF3D2 に配置するファイル : 002_ファイル名

PDF3D3 に配置するファイル : 003_ファイル名

...

④ パラメーターの設定

ReportGen の変換時に変更できるパラメーターが登録されています。[ステートの入力] ボタンについては後述します。

a) 背景色

[背景色(上) R G B (0-255)] と [背景色(下) R G B (0-255)] の計 6 個の入力を使って、背景色の上部と下部の色を指定できます。ReportGen の設定パラメーターの並びと異なりますので、ご注意ください。

ステートの入力	C:\Work\PDF3D\C#Converter\PDF3DAutoConverter\PDF3DAuto\PDF		
背景色(上) R G B (0-255)	33	54	82
背景色(下) R G B (0-255)	179	181	196
ツールバー	<input checked="" type="checkbox"/> ツールバーを表示		
照明スキーム	ヘッドランプ		
3Dの代替メッセージ	この領域を表示するためには、Adobe Readerなどの3D PDF対応ビューワーが		
出力ファイル	C:\tmp\sample\template-multi_3D.pdf		

b) ツールバー

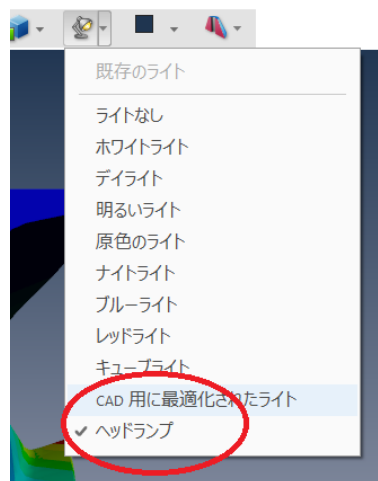
[ツールバーを表示] のチェックは、3D PDF ファイルを開いた際に表示される以下のツールバーをデフォルトで表示するかどうかを指定できます。複数のビューを並べて比較する場合、ツールバーが出ない方がいい場合もあるかもしれません。このチェックがオフの場合は、ツールバーを表示しません。



Acrobat Reader のビューワー上でマウス右ボタンを押して開くメニューの [ツール] メニューから[ツールバーを表示]、もしくは、[ツールバーを非表示] で切り替えることもできます。

c) 照明スキーム

[照明スキーム] は、下図の PDF を開いた際のライトのデフォルト値を切り替えます。



d) 3D の代替メッセージ

3D PDF ファイルを開いた直後にビューの上に表示されるメッセージを指定できます。

この領域を表示するためには、Adobe Readerなどの3D PDF対応ビューワーが必要です。	この領域を表示するためには、Adobe Readerなどの3D PDF対応ビューワーが必要です。
--	--

⑤ 出力ファイルの設定

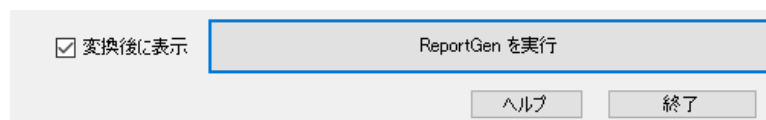
[出力ファイル] ボタンをクリックすると、ファイル・ダイアログが開きます。出力する PDF ファイルを指定してください。デフォルトでは、[テンプレート PDF ファイル] で指定した名前（接頭子）に _3D.pdf を付与した名前が設定されています。

⑥ [変換後に表示]

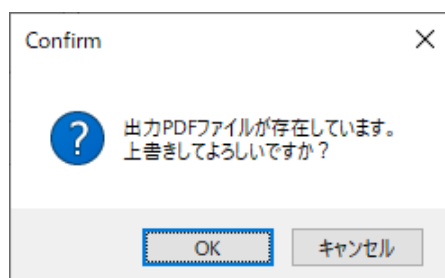
すべての変換が終わった後に、出力 PDF ファイルを開くかどうかを設定します。チェックがオンの場合、変換後に PDF ファイルが開きます。

⑦ ReportGen の実行

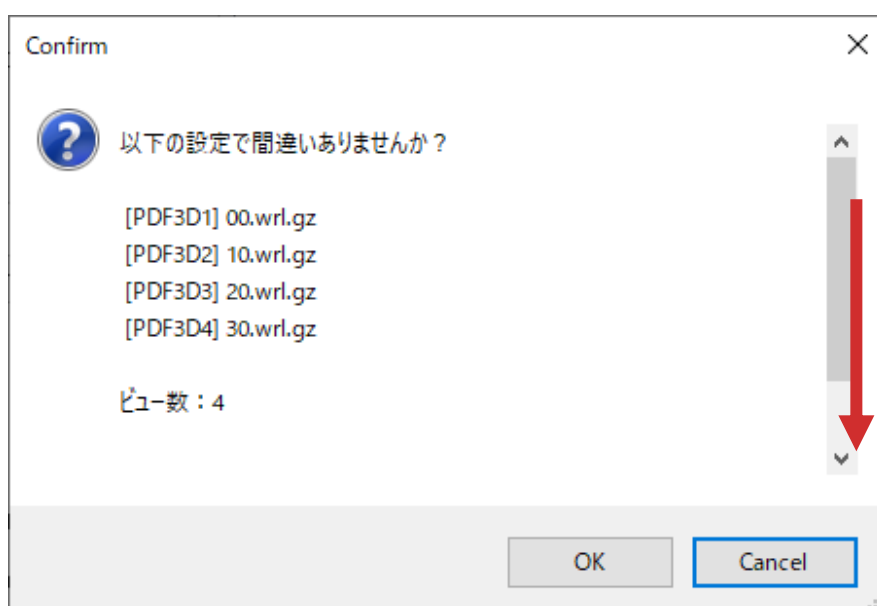
[ReportGen を実行] ボタンをクリックします。

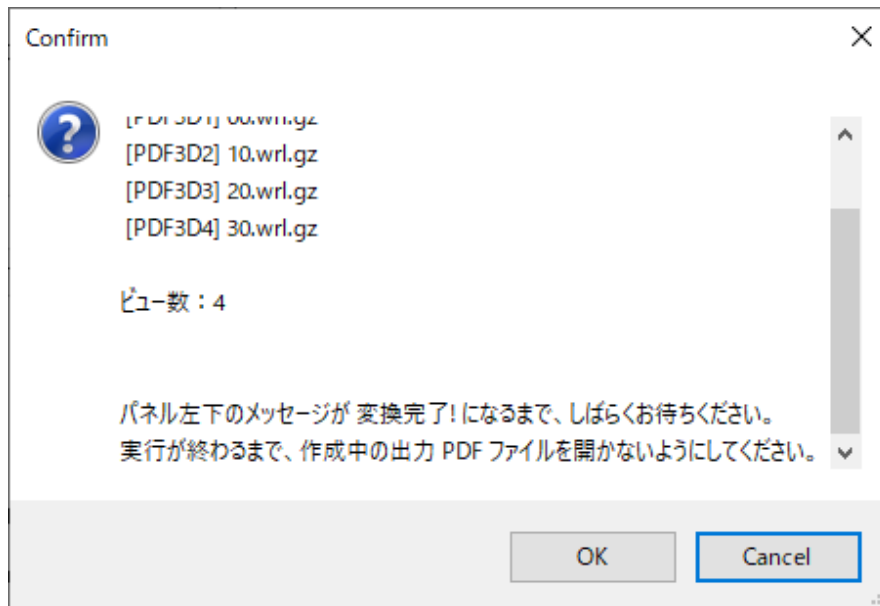


出力ファイルがすでに存在する場合、上書きしていいかどうかのメッセージが表示されます。上書きしていい場合は [OK] を選んでください。変更したい場合は [キャンセル] を選び、[出力ファイル] ボタンをクリックして、別の名前を指定してください。



次に、設定内容の確認メッセージが表示されますので、プレースホルダーとファイルの関係が正しいかどうか、よく確認してください。また、メッセージのすべてを見るには、スクロール・バーを下に移動してください。





実行中には、出力ファイルを開かないようにしてください。途中でファイルを開くとファイルの書き込みに失敗してしまいます。後述しますが、実行中は、このツール本体の左下のメッセージをご確認ください。

設定の内容が正しいければ、[OK] ボタンをクリックします。ReportGen のバッチ処理が開始されます。

「確認ダイアログの表示非表示」

先に述べたように、連番ファイルを準備して変換するなど、運用面でのルールを決めてご利用の場合には、この確認ダイアログは不要かもしれません。

この確認ダイアログを開くかどうかを設定ファイルで設定できます。以下のフォルダーにある設定ファイル PDFSetting.xml をメモ帳などで開いてみてください。

PDF3DAutoConverter1.3¥bin¥PDFSettings.xml

以下の行で出力のオンオフを切り替えることができます。

<confDialog> 1 </confDialog>

デフォルトは 1 で、確認ダイアログを開きます。0 にすると、確認ダイアログを開かずに、すぐに ReportGen の実行を開始します。変更時には、半角数字で指定してください。

ReportGen を繰り返し実行しながら、3 次元データをプレースホルダーに割り当てます。実行中は、ツールの画面左下に、今の処理中のファイル名が表示されます。

現在の処理ファイル (1/4) 00.wrl.gz ...

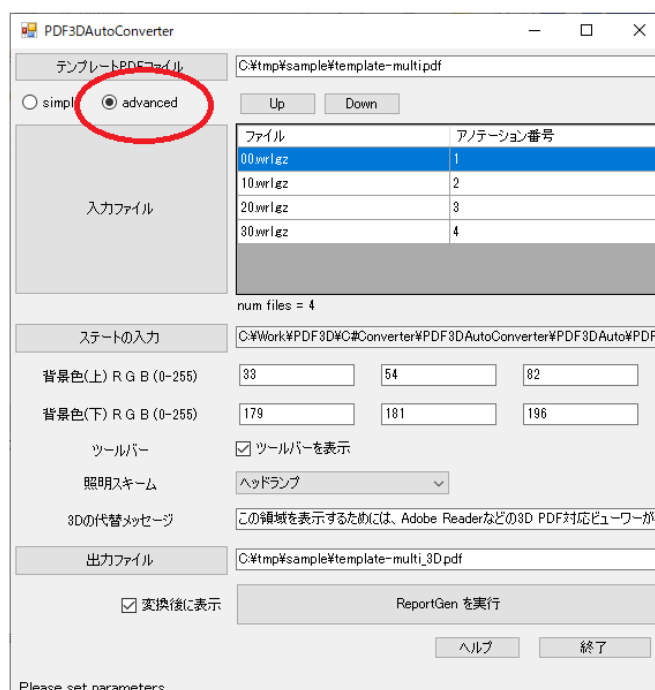
メッセージが "変換終了！" に変わったら、終了です。

変換終了！

前述の⑥の [変換後に表示] のチェックがオンの場合は、作成した PDF ファイルが開きます。出力ファイルができたかどうか、また、ファイルを開き、意図した場所にビューが作成できたかを確認してください。

実行方法 (advanced モード)

advanced モードは、1 つのプレースホルダーに、複数のファイルを指定することができるモードです。また、プレースホルダーのアノテーション番号が 1 から順に並んでいない場合にも、その割り当てたい番号を指定することができます。読み込んだファイル毎に、どのプレースホルダーに割り当てるかを指定できます。



上図のように、advanced モードを指定すると、ファイルのリストの表示方法が変わります。ファイル名とその横に [アノテーション番号] の列が表示され、そこに番号が入力できるようになっています。

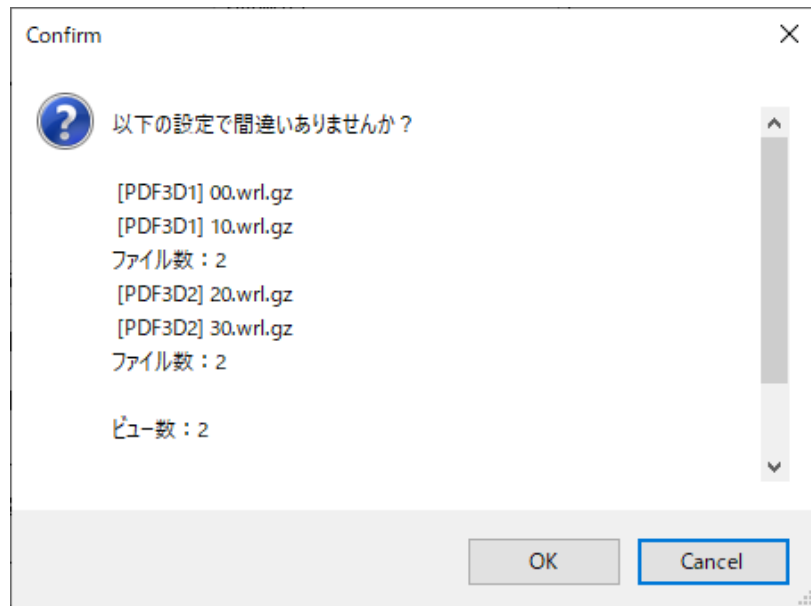
そのファイルを置きたいプレース・ホルダー（PDF3D1 など）の番号に相当する数値を [アノテーション番号] の列に指定してください。例えば、下図の例では、00.wrl.gz と 10.wrl.gz を PDF3D1 のプレースホルダーに、20.wrl.gz と 30.wrl.gz を PDF3D2 のプレースホルダーに割り当てています。

ファイル	アノテーション番号
00.wrl.gz	1
10.wrl.gz	1
20.wrl.gz	2
30.wrl.gz	2

なお、simple モードと同様、ファイルを選択し、Up / Down ボタンを利用して、並べ替えることができます。

※ 間違った場所に設定したり、すでにビューが埋め込み済みの場所を設定したりすると、正しく動作しない 3D PDF ファイルが作成されてしまいますので十分注意して設定してください。
(例えば、マウスで回転できないビューができてしまうことがあります。)

設定できたら、[ReportGen を実行] ボタンをクリックします。



simple モードの場合と同様に、確認のダイアログが開きます。

advanced モードの場合には、プレースホルダーとそのファイル名、また、そのプレースホルダーに設定されたファイルの数などが表示されますので、再度、間違っていないかをご確認ください。また、実行中の注意についてもご確認ください。

よろしければ、[OK]ボタンをクリックします。

「確認ダイアログの表示非表示」

先に述べたように、連番ファイルを準備して変換するなど、運用面でのルールを決めてご利用の場合には、この確認ダイアログは不要かもしれません。

この確認ダイアログを開くかどうかを設定ファイルで設定できます。以下のフォルダーにある設定ファイル PDFSetting.xml をメモ帳などで開いてみてください。

PDF3DAutoConverter1.3¥bin¥PDFSettings.xml

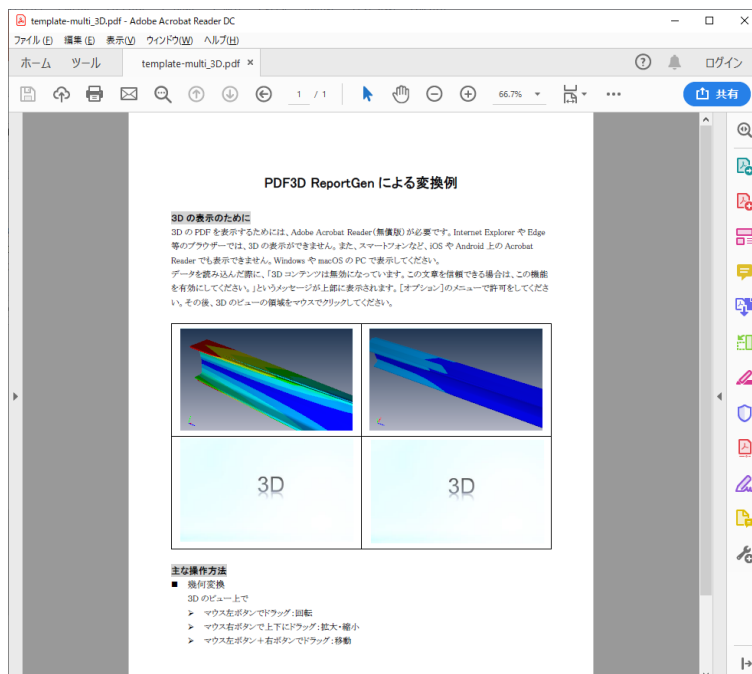
以下の行で出力のオンオフを切り替えることができます。

<confDialog>1</confDialog>

デフォルトは 1 で、確認ダイアログを開きます。0 にすると、確認ダイアログを開かずに、すぐに ReportGen の実行を開始します。変更時には、半角数字で指定してください。

ReportGen のバッチ処理が開始されます。

例えば、上記例のように 2 つプレースホルダーに 2 つのデータを割り当てた場合、以下のような PDF ファイルが作成されます。（各ビューに 2 つのデータが組み込まれています。）



ステート・ファイルとデフォルト値

このツールでは、背景色やツールバーなど、一部のパラメーターの設定を行うことができますが、その他の設定は、ステート・ファイルの設定を利用しています。

デフォルトでは、以下のフォルダー（実行バイナリと同じフォルダー）にある default.pdf3dsettings のファイルを参照しています。

PDF3DAutoConverter1.1¥bin¥default.pdf3dsettings

このデフォルト以外の設定を利用したい場合は、複数のビューの割り当てを行う前に、最初に 1 度、通常通り ReportGen で変換を行い、結果の確認を行ってください。また、その状態をステート・ファイルに保存してください。

以下の [ステートの入力] ボタンをクリックし、そのステート・ファイルを選択することで、その設定が反映されるようになります。

ステートの入力	C:\Work\PDF3D\C#Converter\PDF3DAutoConverter\PDF3DAuto\PDF
---------	--

もしくは、上記の default.pdf3dsettings と差し替えてご利用ください。

なお、このツールでは、参照しているステート・ファイルを念のため、.bk1 ～ .bk3 の拡張子で、同じフォルダーにバックアップしています。

「実行時のステート・ファイル」

その他、このツールでは、繰り返し実行時に、テンポラリのステート・ファイルを作成しながら、ReportGen をバッチ実行しています。このテンポラリのステート・ファイルは、テンプレート PDF ファイルと同じフォルダーに、tmp_*.pdf3dsettings の名前で保存しています。

問題なく変換できた後は、これらのファイルは削除していただいて結構です。うまく変換できないなど、トラブル時には、これらのステート・ファイルを添えてサポート窓口にお問合せください。

また、この実行中のテンポラリ・ファイルを作成するかどうかを設定ファイルで設定できます。以下のフォルダーにある設定ファイル PDFSetting.xml をメモ帳などで開いてみてください。

PDF3DAutoConverter1.3¥bin¥PDFSettings.xml

以下の行で出力のオンオフを切り替えることができます。

<tmpFile>1</tmpFile>

デフォルトは 1 で、テンポラリ・ファイルを作成します。0 にすると、テンポラリ・ファイルを作成しません。（実際には、ReportGen 実行後に削除しています。）変更時には、半角数字で入力してください。